

## 要望

日付：2026/5/25

件名：未来の寒川が活気ある町になるために…子ども達が育つ環境を整備し、十年後・二十年後につなげて欲しい

### 1. 問題、課題

ここ数年、ご近所や知り合いの方から「学童入れなかった」という声を大変よく聞くようになりました。南小学校区では、もう1クラブあっても不思議はないくらいの児童が保留となることが続き、保護者の間では、「2年生になったら入れないかもしれない」「3年生はほぼ無理だから、申し込みをしなかった（児童クラブは学年が変わる時に毎年申し込み・審査があります）」ということが、暗黙の了解のようにすらなっています。国の施策では、6年生までの利用を可能としているにもかかわらず、「定員を超えた」という理由で、早ければ2年生の4月から、児童クラブに通所できなくなってしまうのです。

昭和・平成・令和と移る時代の中で、共働き家庭が増加しました。少子化で子どもの数が減っても、保育園や児童クラブの必要性が高まっていることは、寒川町でも例外ではありません。保育園、こども園など、就学前の子ども向けの施設も増えました。（保育園や幼稚園、こども園などは、他市町の施設利用者もある）。子どもが保育園に入り、保護者が就労を継続したとして、その後、小学校に入学。放課後児童クラブを利用できたのもつかの間、「えっ？2年生でクラブをやめなくちゃならないの？」という状況になってしまうケースが増加しています。

素朴な疑問です。入所の要件を満たし、入所を希望する児童がいる。毎年、入所保留の児童が一定数以上いる。保留児童が出た町内他クラブに対して、策を講じて入所児童数を増やす要望がかなった施設もある。そういった現状の中、何年待てば、南小学校区の放課後児童クラブは拡充されるのでしょうか。今、この時も保留を余儀なくされた子ども達の時間は止まっていません。子ども達はずっと成長し続けています。この子ども達を、大人は見ても見ぬふりで良いのでしょうか。

子ども達の放課後、安心・安全が担保されるように。親達が、放課後の子ども達の心配をすることなく、仕事に就けるように。「定員」という言葉で切り捨てられた子ども達の『育ち』を、どうぞ、もう一度、深く、考えてください

### 2. 改善案

子ども達は、十年後・二十年後にこの町を支えていく大人になります。先に生まれた私達には、子ども達を育てる役割があり、そこを疎かにしたらダメですよね。

この町で一番の宝物。それは子ども達。放課後に、家に大人がいない家庭が増えた今、子ども達が放課後をどう過ごすかは、家庭だけで解決できる問題ではなく、社会全体が、将来を見据えながら取り組むべき課題です。子どもは、大人の何倍ものスピードで、良い事も悪い事も、色々なことを吸収しながら育っていきます。この時期に、どんな場所で、

どんな人（周囲の大人や仲間達）に出会い、どんな経験をするか？安心して過ごせる居場所があるか？は、子ども達の人格を形成するうえでとても重要な事柄であり、子どもばかりでなく、将来の社会に影響してくる事柄です。

是非、町としても、重要課題の一つとして、早急に（令和9年度）放課後児童クラブの定員増を実現してください。入所要件を満たし、入所を希望する児童（6年生までが難しければ、せめて3年生まで）は、希望する子ども達全員が児童クラブに通所できるように。学校や地域、民間など、多方面への声掛け、ご協力をお願いしてでも、サマースクールではなく（サマースクールを必要としている子ども達にはサマースクールを継続しつつ）、年間を通して、放課後の居場所を保障してください。

### 3. 改善後の効果

子育てしやすい町・住んでよかったと思える町として、住民の評価が高まり、若者は寒川に定着するでしょう。また、若い世代の移住希望が増えれば、少子・高齢化の対策にもなります。きっと、寒川の未来は明るくなるはずです。

町の具体策をお示してください。

---

## 回答

<未来の寒川が活気ある町になるために…子ども達が育つ環境を整備し、十年後・二十年後につなげて欲しい>

【所管：保育幼稚園課】

児童クラブの定員拡充について、ご提案をいただきありがとうございます。

南小学校の児童クラブにつきましては、近年待機児童が多い状況が続いており、今年度実施するサマースクール参加者にも南小学校の児童が多く含まれていますが、依然として待機児童は解消されておられません。近年の保育ニーズの高まりにより、昨年度以上に待機児童が増加しており、町としましても、待機児童解消が課題であると認識しています。

一方で、年度途中で入所決定の連絡をしても辞退されるケースや、夏休み後に退所する児童が多いことを踏まえ、本当に必要な方が必要な時期に安心・安全な居場所を確保できるよう、施策を検討する必要があると考えております。

定員を増やすには、新たな施設を整備するのか、学校内で利用可能な教室があれば活用するのかなど検討が必要です。

サマースクールは、待機児童対策としての効果検証のため実証実験的に実施しているもので、令和11年度以降も継続するかどうかは、現時点では判断できませんが、今後、児童クラブにつきましては、定員拡充のことも含めて、よく検討してまいります。